



▲町の催しでの手話通訳 (写真左)、指文字を使った会話 (写真右)

特集

# 手話で つながる 「心と心」

私たちが持つ言語の一つ「手話」。聞く言語ではなく「見る」言語として、多くの場面で活躍しています。今回の特集では、聴覚障害のある人や町内で活動する団体の声を紹介するとともに、一人一人ができることを考えます。  
問い合わせ 福祉課

手話とは、言葉を「音」ではなく「手」で表したものです。手話

手話ってなんだろう？

1760年、フランスに最初の聾啞教育施設が創設され、手話での教育が行われたことが手話の始まりといわれています。  
日本では、その約120年後、1878年に京都に聾学校「京都訓聾院」が設立。1969年に全日本ろうあ連盟が発行した「わたしたちの手話」により、規範的なモデルとして提示された「標準手話」が全国に普及するようになりました。

手話の歴史

なお、今月の広報おかがきの表紙では、指文字を使って「こうほうおかがき」を表現しています。

①物の形を表すもの  
②動作を表すもの  
③言葉の持つイメージを表すもの  
このほか、手を動かす方向や位置、速さによって意味が変わるほか、視線や眉、顎の引き・出しなど「顔の部位」も使います。手の動きと組み合わせることで、命令や疑問などを表現できるようになります。  
また、手話のほかにも「指文字」と呼ばれる、指を使って五十音やアルファベットを表す方法もあります。

## 「聴覚障害」って？

身の回りの音や話が聞こえにくい、または聞こえない状態を「聴覚障害」といいます。障害の程度や聞こえ方、言語発達の状態は一人一人違います。

聴覚障害は聞こえの程度や聞こえなくなった時期によって次の3つに分かれます。一人一人がどの状態にあてはまるかは、本人がどう感じているかによります。

ろう(あ)者	聴覚と音声を使う言語(音声言語)を習得する前に聞こえなくなった人。ほとんどが手話を第一言語としている。
中途失聴者	音声言語を習得した後に聞こえなくなった人。全く聞こえなくても、ほとんどの人がしゃべることができる。
難聴者	聞こえにくいものの、聴力が残っている人。補聴器を使って会話できる人や、わずかな音しか聞こえない人などさまざま。



## こんなときに困っています

聴覚障害は「目に見えない障害」と呼ばれ、外見では判断しづらく、生活の中で困っていても周りの人に気付いてもらえないことがあります。ここでは、聴覚障害のある人が困っていること、そして私たちにできることを紹介します。



人の声が聞こえづらいことがある。



「手話を使えば通じるだろう」と思われがち。



事故が起きたときなど、緊急時の状況が分からないことがある。

## 私たちにできること

補聴器を使っている人と話すときは、相手が聞き取りやすくなるように話し方を工夫しましょう。

### 【話し方の工夫の例】

- 文節で区切って話す (今日 / △△さんが / 家に / 来ますよ)
- 相手の顔を見ながら話す
- 周囲の雑音が入らない場所で話す

聴覚障害のある人のすべてが、手話を使えるとは限りませんが、どのような方法でコミュニケーションを取ればよいか、本人に確認しましょう。

### 【コミュニケーションの例】

- 音声
- 筆談
- 空書 (空間に指で文字を書く)
- 手話

聴覚障害のある人は、電車の遅延が発生したときなどに、音声アナウンスだけでは正しい情報を得られないことがあります。

困っている様子の人には進んで声を掛け、本人の意思を確認した上で支援しましょう。

### 【支援の例】

- スマートフォンのメモ機能などで情報を視覚的に伝える

聞こえる人と、聞こえない人とつなぐ仕組み

## 知っていますか？

### 「電話リレーサービス」

電話リレーサービスは、オペレーターが手話や文字、音声を通訳することで、聴覚障害のある人と相手先を電話でつなぐサービスです。



問い合わせ=03-6275-0912(カスタマーセンター) 開設時間=午前9時30分~午後5時(年末・年始は休み)

# 手話をやってみよう!

町内で活動するボランティア団体「岡垣手話の会」の皆さんが、簡単な手話を紹介してくれました。下の写真を参考に練習し、聴覚障害のある人とコミュニケーションを取ってみませんか。



①人差し指と中指を額のあたりまで持ってくる

「こんにちは」



①両手を重ね、上の手の人差し指以外を握りつつ上げる

「はじめまして」



②両手の人差し指を向かい合わせ、近付ける



①片手の小指側で、もう片方の手の甲を軽くたたく

「ありがとう」



①片手の親指を立て、もう片方の手のひらを近付ける

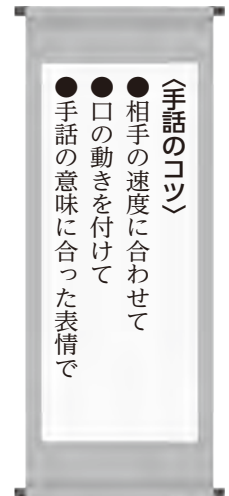


②両手の指先を胸元にトントンと当てる



③片手の人差し指を立て、左右に振る

「何かお手伝いしましょうか」



## 学んでみませんか、手話のこと。 — 「手話奉仕員養成講座」と「岡垣手話の会」 —

### 【手話奉仕員養成講座】

手話の講義や聴覚障害のある人との交流を通して、聴覚障害のある人の意思疎通や手続きなどを支援する人を養成する講座です。

入門課程と基礎課程を隔年で行っていて、基礎課程は入門課程を終えた人が対象です。令和5年度は基礎課程を開催するため、新たに受講を希望する人は、入門課程が始まる令和6年度に申し込んでください。

問い合わせ 福祉課

### 【岡垣手話の会】

毎月第1・第3火曜日に、手話の学習のほか、聴覚障害のある人との交流や情報交換を行っています。

とき・ところ

●午前の部 (午前10時～正午) = いこいの里

●午後の部 (午後7時～9時) = 東部公民館

問い合わせ 岡垣町社会福祉協議会 ☎ 283-2940







岡垣手話の会 会長 石田典子さん



太田和徳さん(写真左)、廣子さん(写真右)

私は以前、聴覚障害のある人が駅で困っている場面に遭遇したことがあります。当時は筆談という手段が思い浮かばず、さらに人見知りもあり、声を掛けられませんでした。こうしたことが続くうちに、手話でコミュニケーションを取りたいと思うようになり、手話の勉強を始めました。

岡垣手話の会では、聴覚障害のある人たちに手話を教えてもらっています。こうした環境もあり、今では、通訳者として聴覚障害のある人の通院や手続きに同行したり、町主催の講演会などで通訳したりと、手話でのコミュニケーションを取れるようになりました。

しかし、通じているつもりが通じていないケースもあり「情報を正しく伝えること」の難しさを痛感しています。

聴覚障害の有無にかかわらず、同じ情報を得られる社会が実現するように、手話で話せる人が増えてほしいです。また、私自身これからも、手話をさらに学び、さまざまな活動を通じて社会貢献をしていきたいです。

手話への興味を持ってほしい

障害には、今回紹介した聴覚障害のほかにもさまざまな種類があり、外見からは分かりにくいものも多くあります。また、個人によって状態や程度に違いがあります。日常的に当たり前だと思っている環境であっても、障害のある人にとっては生活のしづらさを感じることがあります。まずは、障害のことを正しく理解し、どのような配慮や支援を必要としているのかを知り、適切なコミュニケーションを心掛けましょう。

誰もが安心して暮らせるまちへ

日本語や英語などと同じように、手話も言語の一つです。いろいろな国の言語で会話することと同様に、手話を使って会話することによって、自分の世界を広げることができます。手話に少しでも興味がある人は、一歩踏み出してみませんか。

聴覚障害は、外見からは分かりにくい障害です。そのため、知らず知らずのうちに誤解されることもあるといわれています。話しかけても反応がないと感じたときは、「もしかしたら聞こえていないのかもしれない」と想像してみよう。

一人一人が、できることから始めよう

私たちはこれまで、耳が聞こえないことで困ったことがたくさんあります。駅のアナウンスが聞こえなかったり、電話を掛けられなかったりと数えたらきりがなく、昔は外出に同行してくれる通訳者もいなかったので大変でした。

最近は大雨災害などが増えています。私たちには雨音一つ聞こえません。土砂降りでも気付かず、警察官が自宅に来て避難を促してくれたこともありました。

その日以降、雨の日はカーテンを開けておくなどの対策をしています。また、通訳者の人がメールで情報をくれるので安全に過ごせていますが、周囲の支援なく、自分たちですべての情報を得ることは難しいものです。

以前、乗っている電車が急に停まったことがあり、理由が分からなかったのですが、筆談で状況を教えてくれた人がいて、本当に助かりました。耳が聞こえない人の情報収集手段はまだ不足していると感じますが、このような手助けが「普通のこと」になってくれるとうれしいです。

「助け合うこと」が当たり前前の社会へ

【「障害」の表記について】法令などでは「障がい」ではなく「障害」という表記が統一的に使われていることなどから、岡垣町では、当面は従来どおり漢字表記としています。なお、「障害」はその人自身ではなく、社会との関係性の中にあり、社会の側にあるという考えから、「障害者(児)」は「障害のある人(児童)」と表記しています。